

情報保障者支援 ～遠隔支援システムを利用した自由度の高い支援環境を目指して～

東日本大震災の支援を行っている中で、支援者が一カ所に集まらなければならない、といった制約を解消することを目的として、遠隔支援システムの構築を行った。このシステムを利用することで、離れた場所にいる支援者どうしで連携入力を行ったり、以前からの課題となっていたパートナーとの練習環境を提供することができるようになった。

※ システムを構築するにあたっては、長野サマライズセンターで利用しているシステムを参考にさせていただきました。

遠隔支援システムの概要

このシステムは、VPNや音声配信、ITBCサーバなどを1台のサーバ内に構築し、本学内に設置している。

インターネットに接続しているパソコンがあり、そのパソコンから本システムにアクセスを行うことで、離れた場所にいる支援者同士でも連携入力などを行うことができ、支援に参加できる。

・ 事前の準備

このシステムを利用する前に、事前にIptalk、VPNソフト(UT-VPN)、および音声配信用ソフトの3つのソフトウェアをパソコンへインストールする。

・ 利用開始手順

支援などで実際にシステムを利用するときには、VPNソフトを起動し、サーバに接続、その後、Iptalk を起動する。ネットを經由して音声配信の場合は、音声配信用ソフトも同時に起動する必要がある。

遠隔支援システムを用いた支援

・ 聴覚障がい学生側

・ iPhone などにより、音声を送り、その画面に支援情報を表示する。

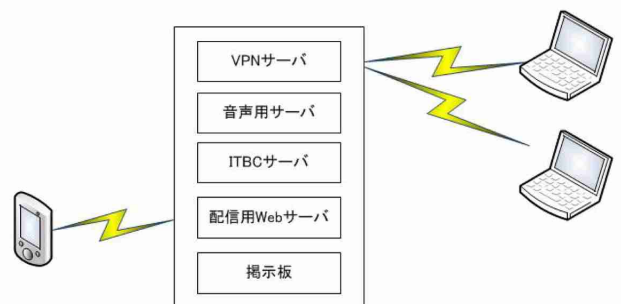
・ ネットに接続されたパソコンを使って音声を送信、Iptalk,上に支援情報を表示する。

・ 支援者側

支援者がそれぞれVPNを利用してサーバに接続する。音声は音声配信サーバを経由して受け、Iptalk に入力し支援を行う。

・ 連携入力の練習

サーバ上に保管されている模擬授業データを流したり、一方の支援者から音声データを流したりして、それを聴きながら連携練習を行う。このとき、他の支援者がその入力を観察し、連携入力に対するコメントを行うこともできる。



遠隔支援システム構成

遠隔支援サーバ

・ サーバの特徴

・ 1台のPC上に仮想化ソフトウェアを用いてサーバを構築している。そのため、導入コスト、および電気代などのコストが少なく済んでいる。

・ 各サーバの情報をイメージで管理しているため、保守に負担がかからない。

・ Windows PCを直接ネットに公開しなくてもよい。

・ Webによる閲覧の場合、多人数(理論的には、100人以上)での同時接続が可能となっている。

・ クローズの掲示板での情報共有を可能としている。

・ 利用ソフトウェア

OS: ubuntu 10.04, Windows XP SP3

VPN: UT-VPN 1.

音声配信: mumble 1.2.3

情報配信: ITBC v2.40 a11, apache2

掲示板: NetCommons 2.1

文字入力: Iptalk 9t56

問い合わせ先

愛知教育大学 情報保障支援学生団体「てくてく」 連絡先 (e-mail: tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp)